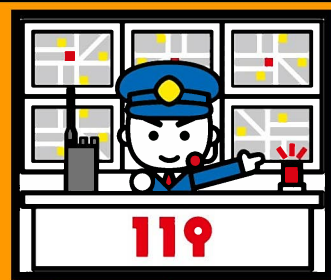


消防学校 ニュース



令和7年2月号

指令センター員講習(第7回)

～指令業務は人命救助の最前線～

令和7年1月14日(火)から1月17日(金)まで、消防職員特別教育指令センター員講習を開催し、県内消防本部(局)から15人の通信指令業務従事者が参加しました。

本講習は、通信指令業務に携わる職員が組織や地域の枠を越えて経験や先進的な取り組みに関する情報を共有し議論を重ねる機会が少ないことや、通信指令業務に特化した専門的な教育を受ける機会がない現状を踏まえ、通信指令員の知識・技術の向上を図り、生命・身体・財産を守るという消防活動全般の能力向上を目的としています。

4日間の短期講習でしたが、指令センター員として必要な知識・技術の習得のために、多岐にわたる講義や訓練を実施しました。



コミュニケーションスキル・ディスカッション



模擬通報訓練<指令員役>



図上訓練(システムダウン想定)の様子



受講生 15人

【担当教官コメント】

通信指令員は119番通報を受信する中で、1件1件の通報に対して通報者の気持ちに寄り添いながら、数少ないキーワードから現場を想像して的確に聴取するとともに、速やかな指令、現場活動隊への情報提供・指示・伝達を行う、まさに“消防の司令塔”です。

業務の特性上、精神的な負担も大きいと感じることがあるかもしれませんが、講習を通じて出会った仲間と日々の苦労や悩みを共有するなどし、より良い指令業務につなげていただけたらと思います。「指令業務は、人命救助の最前線」です。今後の皆様の御活躍を祈念しております。

教務課主査 山口 知宏 (浜松市消防局から派遣)



(第7回)

令和7年2月5日(水)～2月7日(金)

Shizuoka
Fire and Disaster Management Academy

実践的大規模災害対応講習（第7回）

令和7年2月5日（水）から2月7日（金）まで、消防職員特別教育実践的大規模災害対応講習を実施し、県内13消防本部（局）から17人が参加しました。

本講習は、大規模災害発生時において必要な情報収集能力及び指揮能力を習得するとともに、的確な安全管理の下、円滑に活動が遂行できる専門的な知識及び技術を習得することを目標に実施しました。



シミュレーション訓練（宿营地設置）



受講学生と担当教官



図上訓練風景（地震災害）



合同講義（テロ災害・多数傷病者対応、医療と消防の連携）

（担当教官から）

本講習のカリキュラムは、①大規模災害発生時に大きな力となる緊急消防援助隊についての制度を理解する。②静岡県における気象災害を学ぶ。③水災害の活動事例からの教訓を学ぶ。④能登半島地震と地形が近似している伊豆半島での地震災害を想定した大規模災害図上訓練から発災時の初動体制を学ぶ。⑤最新のNBC災害対応の動向や災害事例について学ぶ。⑥緊急消防援助隊を受援する時の体制・連携強化について学ぶ。⑦消防と医療の連携、テロ災害・多数傷病者対応について学ぶ。として、災害対応能力を向上させていく構成としました。

学生が積極的に質問する姿や互いに情報交換する場面が多く見受けられ、各自が高い意識で講習に取り組んでいると感じました。

3日間と短い期間ではありましたが、本講習での学びと学生のつながりが今後も継続し、各所属において活かされることを願います。

教務課主査 飯塚 誠（静岡市消防局から派遣）

ホットトレーニング講習（第3回）

令和6年12月4日（水）から令和7年2月19日（金）までの間（内8日）でホットトレーニング講習（第3回）を実施し、県内14消防本部（局）から157人が参加しました。

本講習は、動画による事前学習及び消防学校において濃煙熱気実火災訓練装置で実際に木材を燃焼させ実火災に近い熱環境を再現させることにより、熱環境及び濃煙を体験すること、火災初期からの火災性状を理解すること及び個人装備の重要性を再認識する



座学



注意事項説明



着装状態チェック



濃煙熱気実火災訓練装置内

【担当教官コメント】

近年、火災件数は微増傾向であるものの、長期の傾向としては減少しており、現場経験が不足しているという現実があります。そのような中で、住宅構造は高气密高断熱の建物が増加し、適切に状況判断を行い安全を優先しながら、屋内進入を図り活動することが求められています。火災性状を正しく理解することは、安全で効果的な活動をする上で不可欠となります。

本講習で学んだことや感じたことを現場活動に活かしていただければ幸いです。

教務課主査 都築 克典（静岡市消防局から派遣）

消防団員特別教育 災害対策講習（第21回）

令和7年1月26日（日）に災害対策講習を実施し、県内消防団から62人が受講しました。近年、気候変動の影響等により自然災害が激甚化・頻発化していることから、風水害対応図上訓練（消防団員向けに応用した「風水害対応イメージTEN」）、ドローン基礎研修（座学・実技）、土砂災害対応訓練（ゾンデ棒捜索・応急土留め設定）といった自然災害に対応した訓練を実施しました。



（担当教官から）

昨年は、元日に能登半島地震、8月に宮崎県日向灘を震源とする地震（南海トラフ地震臨時情報）が発生しました。本県においても、毎年のように台風による豪雨災害が発生し、自然災害に対応した消防団活動が求められています。

受講者の皆様には、講習で得た知識や技術を所属の団で共有していただき、地域防災力の更なる充実強化につなげていただきたいと思います。
教務課主査 高村 勇一郎（県職員）

三沢校長から一言

1月15日、恒例の「第32回静岡県消防職員意見発表会」に審査員として参加しました。最優秀賞、優秀賞の2人は、同じバイスタンダーによる迅速な心肺蘇生をテーマに発表しましたが、僅差で志太 平松直弥さんが最優秀賞を獲得しました。富士宮 村尾宏樹さんも良い内容でしたが、市民への広がりの中で平松さんが分かりやすいと感じました。デジタル真っ盛りの中、アナログな意見は新鮮で好感が持てました。もう1人の優秀賞は菊川 田上裕子さん。SNSを活用した防災広報活動を熱く語りました。

終了後は消防長会の意見交換会、今年は定年の消防長が多く、顔をそろえる最後の機会でも盛り上がりました。

さて、まもなく3月、人事異動の季節がやってきました。3名の教官が所属へ帰任します。

- 飯塚 誠 教官（静岡市消防局）
- 仲村 直樹 教官（下田消防本部）
- 永田 裕司 教官（菊川市消防本部）

飯塚教官は教官最年長で物静かなリーダー、仲村教官はソフトな見かけのよく気が付くサブリーダー、そして永田教官はイケメンのムードメーカーとして、3年間がんばってくれました。

下田からは初めての教官派遣で、慣れない単身赴任お疲れさま。何度もあるわけじゃないので、楽しかったかな？皆さん、所属に戻っても、なにしろ健康に留意し、各本部を背負って立つ存在になるよう期待しています。

県職の教官の異動有無はまだ分かりませんが、私の異動と併せ、次号でお知らせします。

さて、昨日（2月25日）、河津町の実家へ行ってきました。河津桜の開花が遅れており、原木で七分咲き、その他は二分から五分咲きといったところでしょうか。NHKの定点カメラにもまだ映りませんね。昨日は暖かく、1日で一分程度進んだ気がしました。来週頭くらいから見頃になりそうです。車が非常に多いです。天城では事故に注意するとともに、平場では歩行者に十分注意し、楽しいお花見を！



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX 054-369-1197 E-mail fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp



★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索